

## 令和3年2月定例仙台市社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日 令和3年2月2日(火)
- 2 開会及び  
閉会の時刻 午前10時00分開会 午前12時00分閉会
- 3 開催場所 仙台市役所教育局第1会議室
- 4 出席委員氏名 阿部哲也委員, 小形美樹委員, 庄司弘美委員, 高城みさ委員,  
高橋満委員, 野原昌之委員, 広瀬剛史委員, 松本由男委員,  
松山智美委員
- 5 事務局職員 筒井生涯学習部長, 佐藤生涯学習支援センター長,  
田中生涯学習課長, 唐牛生涯学習課企画係長,  
生涯学習課企画係松田主事
- 6 会議の次第
  - (1) 開会
  - (2) 挨拶 高橋委員長
  - (3) 報告事項
    - ① 「(仮称)仙台市教育構想2021」中間案に対する意見聴取について
  - (4) 協議事項
    - ① 施策の柱建てについて
    - ② その他
  - (5) その他
  - (6) 閉会
- 7 会議の概要
  - (1) 報告事項
    - ① 「(仮称)仙台市教育構想2021」中間案に対する意見聴取について

○令和2年12月、「(仮称)仙台市教育構想2021」中間案に対する有識者意見聴取の機会が設けられ、仙台市社会教育委員の会議から高橋委員長と小形副委員長にご出席頂いた。その際頂いたご意見の内容と、ご意見に対する教育委員会事務局の考え方は以下のとおり。

  - ・学校教育が中心となっており、バランスが悪いのではないか。生涯学習の視点を踏まえて施策の構成や内容を考えてみてはどうか。

→本構想の基本理念では「学びの循環」の考え方を掲げており、ライフステージを通じて学びと実践が継続し循環して、向上していくことを念頭にしている。基本方針Ⅳにおいて、「生涯にわたり誰もが主体的に自分らしく学べる機会の充実」を掲げており、今後、生涯を通じた学びの充実に努めていく。

- ・「自立」という表現について、自己責任論的な意味合いがあるため、無自覚に使うのは避けたほうがよいのではないか。
  - 基本理念の「自立する人になる」という表現については、一律ではなくて、個性に応じた一人一人の自立と捉えている。本構想の策定に向けた議論の中でも、自らそれぞれの自立に向けて行動することや、特に必要な支援を求めながら、相互に支え合うこと、行政の支援による自立も含まれるとされている。こうした考えを表すために、ご意見を踏まえて、基本理念の説明に「相互の支え合い」についての記述を追加した。
  
- ・全体の構成について、施策が混在して分かりにくいいため、整理が必要ではないか。
  - 今後、取り組むべき課題については6つの基本方針を掲げている。
  - また、各基本方針に掲げる施策と、その趣旨については、1月27日に開催された教育プラン検討委員会の協議資料「(仮称)仙台市教育構想(最終案)」内の「第5章 基本方針」説明文の中に関連する記述を設けている。
  - 経済的支援については、経済的に課題を抱える児童生徒の可能性への挑戦を支えるため、基本方針Ⅰに掲げているが、その趣旨がよく伝わるよう説明文の修正を加えている。
  
- ・「学校を核とした地域づくり」という部分について、地域と学校はともにあるというイメージを持てるような表現にしたほうが良いのではないか。
  - 学校を地域のつながりや協働の中心として、地域づくりにつなげていくことを表していたが、意見を踏まえて、施策の名称を「学びを通じた地域づくり」と修正を加えた。
  
- ・「主体的・対話的で深い学び」というのはどういう教育方法であるのか分かりにくいので、仙台市の教育としてどのように取り組むべきかということを示すことが必要ではないか。
  - 本構想においても自分づくり教育など、学びに向かう意欲や主体性の向上を図る取組、ICTを活用した協働的な学び合い、深い学びに向けた授業改善などを取組方針として掲げ、推進していく。
  
- ・課題や視点の整理、SDGsの視点も踏まえ、今後10～20年を見据えて構想に盛り込むことが必要ではないか。
  - 本構想においては学校教育や社会教育施設などにおけるICTの活用推進など、時代の要請に応じた教育環境の整備を記載している。
  - また、不登校の児童生徒や特別な支援を要する児童生徒への支援、障害を有する方々などの生涯にわたる学習支援などを記載している。
  - 各教育分野においてSDGsの趣旨や社会的課題との繋がりを意識した教育政策を記載しており、今後具体的な取り組みを進めていく。
  
- 社会教育委員の会議2月定例会で共有した「(仮称)仙台市教育構想2021」に関する資料については、確定版ではなく、今後さらに修正が加わる可能性がある旨、事務局より補足説明された。

## (2) 協議事項

### ① 施策の柱建てについて

○ 施策の柱建てに関する「協議資料」の内容について、グループに分かれて議論を行った。

○ 協議資料の確認点として、「全体の構成の確認」「施策の柱建て」の2点について確認しながら協議を進める旨、委員長からご説明いただいた。

○ 各グループの議論内容と、まとめは以下のとおり

#### 【障害のある市民の生涯学習について】

- ・ 当日のメンバーは、高橋委員長、庄司委員、高城委員。
- ・ 参加の機会については、イギリスにある美術館ナショナルギャラリーの取組（利用者の意見を聞く学芸員の方がいて、運営に生かしていく）が参考になるのではないかと。「参加の機会」がキーワードで、参加の機会をどう拡げていくかという視点。学習事業の改善や、運営の方向性について、利用者の意見聴取の場があったりすると、先進的な取り組みになるのではないかと。
- ・ 「仙台らしさ＝市民との協働」を意識して考えてみてはどうか。
- ・ 障害者の方が出かけるときにはサポートが必須。学習機会だけでなく、全体的なサポート体制という面も改善を図る必要があるのではないかと。
- ・ 必要なサポートを必要な人に届けるために何ができるのか。今すでにあるサポート体制が浸透するためにはどうすればいいのか考えてみてはどうか。

#### <まとめ>

- ・ 柱建てについては、協議資料の内容に沿って確認をしていく。
- ・ 調査した内容については、柱建て2・3に書き加え、骨子案として詰めていく。
- ・ 柱建て1の社会教育機会へのアクセスについては、「仙台らしさ＝市民との協働」と捉えて、その部分で仙台らしさが表現出来たら良いのではないかと。
- ・ 実際の調査はサポートをする方との面談がほとんどだったため、もっと当事者からお話を聞く機会があれば良かったのではないかと。
- ・ 例えば、社会教育施設の入場料を無料にするなど、いろいろな角度から検証し、今後意見を集約していきたい。

#### 【貧困の中にある人々の生涯学習について】

- ・ 当日のメンバーは小形副委員長、阿部委員、野原委員、広瀬委員、松本委員、松山委員。
- ・ 社会教育「施設」へのアクセスではなく、社会教育「機会」へのアクセスとして柱建てを考えていくほうが良いのではないかと。
- ・ 柱建ての内容、順番については推敲し、これからの話し合いの中で、流れを検討していくことが必要ではないかと。
- ・ 当事者のニーズを検討するにあたり、貧困者本人への情報提供を強化するという柱建ては必要だと感じる。情報提供には、行政や学校との連携・協力が必要。また、それぞれの団体にある情報の共有も一歩踏み込んで書き加えることが必要ではないかと。
- ・ 学校教育が終わった後のサポートにも1, 2行触れる内容にしたほうが良いのではないかと。

<まとめ>

- ・柱建てについては、協議資料にある内容で概ね良い。1の社会教育「施設」は社会教育「機会」としたほうが良いのではないか。また、1の中の項目の順番を変えることも検討していきたい。
- ・実際に貧困の中にある方々の声が拾えなかったのではないか。可能であれば更に調査する必要があるのではないか。
- ・社会教育の観点から議論しているが、市の他の部局（例えば健康福祉局等、貧困の中にある方々と関わっていると考えられる部署）が、自分達の事業の中でどう社会教育と関われるか、という観点も盛り込めると良いのではないか。

②その他

- 委員長より答申のスケジュールについてお話をいただいた。令和3年10月に答申の予定だったが、内容を精査することも踏まえて、令和3年8月を目標に内容のある程度確定させるよう進めていくこととした。
- 4月の定例会では、柱建てに沿って書き加えた資料を検討していくため、4月の定例会までに社会教育委員の皆様へ、別途意見照会を行うこととなる旨、委員長からご連絡いただいた。

8 その他  
特になし

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第4条及び第5条に基づき会議録を作成し、同要領第6条に基づき委員長及び会議録署名人が署名押印する。

令和 3 年 3 月 15 日

委員長

高橋 滂

会議録署名人

野原 昌之